



鈴野しずね

ハンドベルの
音色は空へ

ハンドベルの音色は空へ

クリスマスが近づいたある日のこと。

途中降り立った駅で、ふと耳に入ってきた綺麗な音に思わず足を止めた。

制服を着た高校生達が、ハンドベルのミニコンサートをやっていた。

20~30人くらいだろうか、けっこうな大人数。

先生の指揮に合わせて、真剣にハンドベルを振っていた。

そのスペースだけ、空気が凜としていた。

でもそこから生まれてくる音楽は、とても温かく美しかった。

それはまるでシャボン玉の交響曲。

次々と振られるハンドベルの中から生まれた透明なシャボン玉が、陽の光で明るい天井のほうへとふわふわのぼっていく、虹色に輝きながら。

そんな光景が重なった。

聴きながらしみじみと感動し、涙が出そうだった。

ひとりだけじゃ音楽を作れない、一人一人の見せ場も無い、演奏する人達全員の心が一つになった時だけ初めて音楽になれる、ハンドベルってそういう楽器なのかも。

幼さと、まだ半分さなぎから抜け出せないような大人びた表情が入り混じった顔つきの、ピュアな高校生とハンドベル、なんだか最強な組み合わせだった。

寒い中、素敵な演奏をどうもありがとう。

ところでこの人達はいったいナニモノだったのだろうか？

ハンドベル部ってこと？

こんな地味な部活があるの？

音楽の授業の一環？

生徒会の有志でやってるとか？

イマドキの学校って、ハンドベルが標準装備されているのか？

ものすごくナゾだったのである。←だから高校生なんだってば、笑。

ハンドベルの音色は空へ

<http://p.booklog.jp/book/18428>

著者：鈴野しずね

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/shizushizu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/18428>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/18428>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.